



新原皓一前会長 米国セラミックス学会の 最高栄誉賞受賞決定

新原皓一前会長（現長岡技術科学大学学長）が、米国セラミックス学会の最高の栄誉ディスティンギッシュドライフメンバシップ（Distinguished Life Membership）賞を受賞される。

40年余のセラミックス材料分野での重要かつ革新的研究と開発など学術面の功績に加え、数多の学会や大規模国際会議の会長・組織委員長としての卓越したリーダーシップ、世界のセラミックス工業への貢献の数々が評価されたものである。

日本人では稲盛和夫京セラ名誉会長などに続き8人目であり、セラミックス分野での研究業績評価により昨年受賞のジョン・ジェブソン賞（John Jeppson Award）と両方を得る栄誉は日本人初となった。

具体的に

- ①レアアース元素の分離、精製とレアアース基の熱電子放出材料や超強度磁石研究。
- ②窒化ケイ素、炭化ケイ素、炭化ホウ素等の構造用セラミックスを従来の化学気相蒸発法の概念を超える1時間に1mmという超高速な成膜レートで成膜するプロセスの開発。
- ③これら厚膜の破壊靱性値の計測手法として圧子圧入法を駆使した新しい評価方法（この評価手法における破壊靱性値の計算式は「新原の式」として世界のセラミックス研究者間で共通認識となっている）。
- ④1986年世界に先駆けて「ナノコンポジット」

概念を提唱し、高性能の構造材セラミックス、機能性セラミックスを創成。さらに1991年からは金属およびポリマー材料にも展開可能と実証し、多機能調和型材料を多く創成。

- ⑤近年は分子や格子の分野の複合材料に関して新コンセプトを提案。

主に以上により、世界をリードしてきた。

また研究成果の産業としての実用化、140を超える特許取得（申請250件以上）、多数のベンチャー企業設立にもかかわらず、世界のセラミックス技術・科学に多大な貢献と牽引役を果たし、今後も邁進される。

授賞式は2011年10月15～18日米国オハイオ州コロンバス市にて開催の米国セラミックス学会第113回年会中の17日に举行される予定である。